

議会だより

2025.5.25 No.214

もくじ

表紙 磨く

2～3P 令和7年 第一回定例会

4～8P 一般質問

9～11P 島内行政視察報告

12P インタビュー



磨く^{みが}

八丈町の農業就業者減少という課題解決のための施策の一つである「新規就農者支援・確保事業」、その具体的な事業が「八丈町農業担い手育成研修センター」です。（公財）東京都農林水産振興財団、（一社）東京都農業会議、東京都八丈支庁、東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所などと連携して就農希望者への支援を行っています。研修科目は町の基幹作物4品目（フェニックスロベレニ、ルスカス、レザーファン、八丈フルーツレモン）。葉物3品目は出荷量日本一、「八丈フルーツレモン」は市販品のレモンよりも大きく、果皮の苦みが少なく、皮ごと食べられ、注目度も高まっています。

自然の恵みに加え、各品目の品質向上やブランド力強化のために、生産者同士のつながりを深め、栽培技術を向上させ、消費者の視点を活かしながら販路拡大を図るなど、多様な視点、多様な人材によってさらに「磨き」をかけていくことが、島の活力につながっていくと思います。

（取材 真田 幸久）



議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます

<https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>

行政とともに取り組む議会へ

急速にデジタル化が進むなか、町の多くの事業でデジタル技術が取り入れられ、議会も紙ベースから脱却しPCやタブレットに移行する。

令和7年度に向けた施政方針では、町制70周年を迎えて記念事業が実施されたほか、歌劇「夕鶴」の公演や八丈町勢要覧記念誌の発行が報告された。重点施策としては、防災対策、農業・漁業・観光業の振興を上げている。

令和6年度の補正予算では、4億円近くの減額補正があったが、資料館外構工事やいくつかの工事の入札不調のため翌年に繰り越された。

予算審議では、町の事業の施策として来年度で改められる内容がいくつかあった。そのひとつは地域手当（※）の導入によって、職員の待遇改善が進むこと。もう一

つは、様々な分野でデジタル化の推進が図られることだ。デジタルによる行政防災無線機の設置の徹底や、ホームページのリニューアル、技術を駆使した農業・漁業・観光業への活用があげられる。そして業務や組織体制を見直して、

※地域手当

昨年8月の国の人事院勧告により、地域手当の支給地域を市町村単位から都道府県単位に見直すこととなり、地域手当（給料+管理職手当+扶養手当）×支給割合の支給対象に加わったことに伴うもの。これまで、地域手当の非支給地であったが、特別区以外の東京都という扱いとなり、支給割合は16%となった。一方で、総務省は4%ずつ4年間での割合変更を示しているが、八丈町では令和7年度に6%と、その後2年は5%ずつ引き上げる予定。

仕事の効率化や事務負担を軽減し、少子高齢化や人口減少などの町の重要課題に取り組むとしている。

温泉事業30周年を迎える温泉施設の老朽化に関する調査については、調査の前に観光目的の施設なのか、福祉目的なのかを見定めて計画を立てる必要があると、町の姿勢をただすいくつかの質問と意見が出された。また、島外で行われるイベントを積極的に活用して町をアピールすべきとの提案や、離島留学については、寮の建設や

地熱発電の進捗状況について

掘削会社が見つからず掘削事業が遅れていたため、この事業そのものの実現が不安視されていたが、オリックスの社員2人が来島しこれまでの経緯を明らかにした。

掘削会社が決まり、今年秋に掘削工事に着手する予定であることや事業費が増加することを報告した。準備工事、本工事などのスケ

預託料の増額を求める要望が出された。

新クリーンセンターが始動し、歴史民俗資料館の耐震改修工事が終了し、3年間にわたる東京宝島サステナブル事業が完了する新年度は、多くの課題を抱えながらも新しいフェーズに入ったという印象だ。横断的に組織された職員のプロジェクトチームで個々の事案について話し合う機会が増えたことは望ましいし、そうした動きを私たち議員が後押しする機運が起こっている。

ジュールが具体化した時点で改めて報告すること、掘削工事に着手する前には、住民説明会を開くことを約束した。

「八丈島の海・山・暮らし館」

今年度で最終年度となる事業の概要説明があった。末吉の多目的交流施設（旧末小）を「八丈島の海・山・暮らし館」としてリニューアルし、展示内容を工夫したことなどを明らかにした。

教室部分は、「海の部屋」「山



の部屋」「暮らしの部屋」と分けられ、それぞれに映像やパネルを

駆使した空間となる。

また、VR（バーチャルリアリ

「八丈島の海・山・暮らし館」



主な議決事項

第一回定例会

令和7年3月3、17、18、28日

◎ 令和6年度八丈町一般会計補正予算
ほか補正予算12件

◎ 八丈町固定資産評価審査委員会委員
の同意について ほか同意2件

◎ 令和5年度公営住宅整備事業粥倉団
地建築工事請負契約の変更
ほか契約の変更2件

◎ 人権擁護委員の推薦につき意見を求
めることについて

◎ 令和7年度八丈町一般会計予算 ほか
予算7件

◎ 専決処分事項の報告及び承認につい
て

◎ 八丈町議会議員の議員報酬、期末手
当及び費用弁償支給条例等
の一部を改正する条例 ほか条例12
件、規則2件、規程1件

◎ 議員の派遣承認について（令和7年
度東京都町村議会議員講演会）
ほか派遣承認5件

◎ 八丈町辺地総合整備計画の策定につ
いて

ティー）により「旧陸軍司令部
だった鉄壁山の内部映像」や「ク
ジラの遊泳する姿の迫力ある映
像」が見られる。

このほか、自転車を使ったエコ

主な会議事項

全員協議会

令和7年1月15日、2月7、14、17日

◎ 町旅費の取り扱いについて

◎ 都要望事項について

◎ 島内行政視察について

◎ 令和7年度事業計画について

◎ 東京宝島サステナブル・アイランド
創造事業について

◎ 八丈島におけるプロジェクトにつ
いて

◎ 八丈島地熱発電利用事業について

◎ 条例改正について

議会運営委員会

令和7年2月21日、3月10日

◎ 第一回八丈町議会定例会について

◎ 第一回八丈町議会定例会（一般質問）
について

総務文教委員会

令和7年1月15日

◎ 介護施設との意見交換会の結果につ
いて

ツリーズムの実施などで、末吉地
区の活性化につなげようとする企
画となっている。入館料は一般5
00円（大人）となった（島民は
100円）。（奥山幸子）



さなだ ゆきひさ 議員
真田 幸久 議員

施政方針について

○令和6年度において、「役場内部の立て直しを図る」とあったが、その取組と成果は。

○総務課長 技能労務職の昇任試験受験資格要件の見直しや、昇格試験を受験しない職員の承認制度の整備も行った。意識調査結果を基に、町長と職員が話し合う場を設ける予定だったが、報告書の取りまとめに時間を要し、6年度での調整ができず、7年度実施に向けて調整していく。意識調査をもとに課題項目を絞る中で、対応を今後協議していきたい。

○令和7年度において、「業務の効率化や事務負担の軽減を図り、業務や組織体制の見直し

を行い、多様な地域課題の解決に努めていく」とあるが、具体的な方法やスケジュールは。外部人材の積極的活用が必要では。

○既に取り組んでいるデジタル技術の活用等による、業務の簡素化・効率化の検討、6年度実施した定員管理での各課とのヒアリングなどを踏まえ、より効率的・効果的な行政運営が行えるよう、機構改革や外部人材の活用についても検討していく。

八丈町基本計画について

○「基本計画の改訂にあわせて当該計画の事業成果を確認、町民に公表」とあるが、具体的な方法とスケジュールは。

○企画財政課長 4～6月に、行政評価の進行にならって検証項目を作成、各課で効果検証を行い、その結果を取りまとめ、7月までにはホームページで公表といった流れで進めていきたい。

○後期基本計画策定にあたっての具体的な方法とスケジュールは。

○6～7月に、検証を踏まえた「改定案の初版」を作成。この初版を基に協議・修正を図り、「改定案の第2版」を作成、9～11月に総合開発審議会各作業部会を開催、部会での意見を基に「改定案の第3版」を作成する。12月にこの第3版を総合開発審議会本部会へ諮問、答申後1月にパブリックコメントを実施、集まった意見を基に2月に「改定最終版」を作成するといった流れで進めていきたい。コンプリート版とダイジェスト版を印刷、4月広報とともにダイジェスト版を全戸配布する予定。

八丈町の医療体制の充実について

○島外通院交通費補助制度について、補助金交付要綱の運用にあたっては柔軟な対応を行うとのことであったが。

○福祉健康課長 1月末現在で交付金額は前年比24・5%減で、年度末に向けて申請が増えてきており、最終的には約15%減を見込んでいる。制度改正によつて予算に余裕が生じれば、今後、患者の病状に応じた補助回数の拡大などに回すことを検討したい。

○オンライン診療について、東京都の事業として2事業の実証実験（小児科…既に実施、外国人旅行客向け…実施予定）があるが、町の積極的な関与は。

○病院事務長 小児科については事前相談があり、町立病院の関わり方、受診件数などの情報共有も行っている。外国人観光客向けについては、事業内容把握にとどまっている状況。医師確保については年々厳しい状況となっているなかで、小児科オンライン診療実証結果や現在実施している町民向けアンケートの結果などを踏まえて、当院でのオンライン診療についても検討していきたい。



埼玉県八潮市の県道が陥没し、トラックが転落した事故は下水道の水漏れにより土砂が流出、地盤が弱くなり陥没するという重大事故になった。報道さ

道路の安全について



やました たくみ
山下 巧 議員

れている陥没事故は1万件を超えるそうだ。八丈島では大雨、地下水による道路下の土砂流出、側路の崩れ亀裂が懸念される。島民は毎日車を使うため道路の安全保守点検はどのようにしているのか。

〔建設課長 八丈町では令和3年3月に施行した実施要領に基づき、点検項目を「路面」「路肩」「歩道」「排水施設」「路上施設」など十項目に分類し町道のパトロールを実施している。



産業観光課 配布資料

今年正月に亀裂が入り3月に自然崩落した鴨川林道。現在は通行止めになっているが、片側は深い谷になっており大変危険。修復のめどが立っていないので注意が必要

老朽化した取水管について

〔大川水源から浄水場までの取水管は古く、地震や土砂崩れで破損する可能性が高いと考えられる。最新の浄水施設が完成し安心、安全な水の供給が出来るようになったが、取水管が破損した場合の交換工事中における対策を問う。

〔公営企業管理者 大川水源の導水管は古く破損する可能性が高いと認識しており、令和8年度以降に東京都へ改修計画を提出する準備を進めている。大川配水池系への断水対策についてはバックアップとして根田原浄水場、又、護神山配水池からのバイパス管を利用した送水により、災害発生時でも安心安全な水の供給に努めていく。

水の販売について

〔「八丈島の水は美味しい」と言われ、離島の中では特に恵まれた島といえる。近年、水の安全性に敏感な方が多く、水道

水は飲まない方も多い。せっかくの美味しいと定評のある八丈の水で「八丈ブランド」のおいしい水をペットボトルで販売できないか、非常時の備蓄水としても有効である。一般事業者が八丈島の水を販売する場合の町の認可、法的ガイドラインを問う。

〔公営企業管理者 日本全国各地でいろいろな種類の水が販売されているが、八丈ブランドの水をペットボトルで販売することについては新たな建物や設備、人材確保、人件費を考慮すると公営企業としての事業展開は難しい。一般事業所が水を販売する場合の認可や法的ガイドラインは厚生労働省や保健所、給水管からの水を販売するには町給水条例での制限がある。





おくやま さちこ 奥山 幸子 議員

八丈町奨学資金のさらなる拡充を

人口減少に歯止めがかからず、町の産業の担い手がいらない状況が続いている。後継者不足を解決するのは町の課題の一つと思うが、対策は道半ばだ。特に町の産業の中心となる農業や漁業の将来を力強いものにするために、人材を育成しなければならぬ。これまで町は奨学金制度を実施し、給付型の導入など改善も進めてきて、少しずつだが効果が出ているように思う。制度を拡充し、次世代を担う人材が町に定着するよう、さらに力を入れてほしい。

問 現在の貸付状況は。

答 教育課長 奨学金交付（在

学中）1名、猶予期間（資格未取得・待ち）1名、貸付金返済義務者3名、給付決定予定者1名、給付見込者1名。

問 現在の返済状況は。原資となる基金2000万円の残額はどれくらいか。

答 返済中1、返済済1名、滞納1人。基金の残高は約1100万円。

問 今後課題となっている部分の改善と制度の見直しについて町の見解は。

答 貸付型は債務者の弁済意欲による影響が大きい。また給付型は、進路が変わった場合など先が読めない部分もある。民間や国の奨学金制度が充実してきていて、町の貸付金制度の需要がない。制度の必要性については検討したい。

問 大学の授業料の無償化、給付型の全国的な制度があるというが、あくまでも町に残ってもらうための対策として、制度そのものをすべて給付型にする考

えはないか。

答 すべてのを給付型にというのは、自身の意思で島内就職を希望する人以外には、足かせになる可能性もある。慎重に検討する必要がある。

問 重複受給を可能にする考えはないか。ちなみに、他の島しょの奨学金状況を見ると、大島、神津、三宅、小笠原は独自の制度を実施している。ただ、すべて貸付で給付型ではない。



八丈町奨学金貸付金の案内

給付型を取り入れているのは八丈だけなので、さらに重複を可能にして内外にアピールすべきでは。

答 国の施策も年々変化し、町の奨学金需要が少なくなことから制度そのものを見直す時期にきていると考えている。

問 一次産業（特に農業）に特化した給付型の創設について町の考えは。

答 一次産業や人材不足で苦慮している職種（医療、保育関係）のインターン・Uターン者に対し、奨学金返済の補助を実施している自治体もある。様々な事例を調査し、よりよい制度を考えていく。

問 町長 農業に特化した奨学金を提案した後に、国の制度が充実してきた。様々な奨学金が提供されているが、目的は町の学校の生徒数を増やすことが重要でこの制度は大切。それを実現するには、行政の縦割りを打破することが必要となる。各課を横断して1本化する対策を考えていきたい。



やました のりこ 議員
山下 則子

スマートディスプレイ 「八丈ちゃんねる」を活用 できるサポートを

問 東京サステナブルアイルランド創造事業の施策として、高齢者に配布されたスマートディスプレイ、通称「八丈ちゃんねる」だが、高齢者宅を訪問した折り「時計のように置いてあるだけ」と言われた。

このスマートディスプレイには便利な機能がたくさんある。ところが、使い方がわからないので時計代わりに置いてあるだけだ。

私からの提案だが、1対1で操作を教えてくれるサポーターを作ってほしい。地域の振興委員・民生委員・老人クラブ・募

集したボランティアなどの人達にお手伝いをお願いしてお宅を訪問し、使い方の実践を通して有効活用してもらうように手ほどきしていただくのはいいかか。町の考えを伺う。

また、機能を増やす考えはあるか。例えばオンライン受診のように、病院にすぐ行くのではなく、テレビ電話機能で状態を話し病院受診するかどうか判断してもらうとか、あるいは薬だけならばテレビ電話だけで済ませ、八丈病院からかかりつけ薬局にFAXしてもらえば、病院で待つこともなくなる。

最後に、スマートディスプレイの在庫は何個ぐらいあるか。もし、再度周知してスマート



ディスプレイをほしい人が在庫以上になった場合、どのように分けるのか基準を教えてほしい。

答 福祉健

康課長 スマートディスプレイに関する説明会は、これまで福祉介護事業者向けの説明会を3回、民生委員向けが1回、利用者向け集団説明会を9回、配布前に実施している。

1点目の操作を教えてくれるサポーターを作ってほしいとの質問については、名前のあがった各団体や組織と調整していく必要がある、今後の検討事項とする。

まずは、画面に触れてみてくださいという声かけを関係者の皆様をお願いしたい。

2点目の機能を増やす考えは、との質問については、令和5年9月に端末の配布がスタートしてから、令和6年1月に読み上げ機能を追加、その後、飛行機の運行状況、インターネットラジオ、すこやか体操、デマンドタクシー予約、脳トレゲーム、ネットニュースなどの機能を追加している。新たな機能追加のご要望に優先順位をつけ、より便利で使いやすい端末となるよう改善を進めていく。

また、オンライン診療に関し

ては、アカウント登録や診療料の支払いが伴うためこの端末では難しい面があるかと思うが、4月以降に「こころみクリニック」がオンライン診療を実施する予定ということも聞いているので、連携できる可能性があるのか、今後の動向を注視していく。

3点目のスマートディスプレイの在庫数と希望多数の場合の対応は、との質問については、現在、一般配布用35台の在庫がある。

万一、端末の在庫が足りなくなった場合には、端末を追加で導入することも視野に入れ、対応する方向で検討していく。

問 安否確認の機能があるが、どこに連絡がいくのか。

答 安否確認にも活用できる機能が毎朝表示され、ディスプレイをタッチすることで利用の有無のデータが得られるが、それを毎日確認して折り返しの連絡や訪問を行う体制はまだ構築されていない。



おきやま のぼる 議員
沖山 昇

町道における無電柱化について

東京都では近年激甚化する自然災害への備えの一つとして、「電柱のない島」を目指す取り組みを示している。

「東京都無電柱化推進条例」に基づき、「東京都無電柱化計画」を策定し、島しょ地域の都道においても「整備手法の確立とモデル路線での整備」を掲げ、無電柱化事業に取り組んでいる。

■大里の玉石垣前の都道や東畑交差点から底土へ向かう都道、八丈支庁前の都道など、自然災害への備えや安全面、良好な景観のための無電柱化が進められている。観光地である八丈

島での都道の無電柱化だが、都道と交差する町道での計画は。

■建設課長 東京都では、東京都島しょ地域無電柱化計画に基づき、都道の無電柱化を推進している。都道と接する町道に対する事業としての計画は、記載がない。

町道に対する計画は、「5・島しょ地域の整備計画」の「5・1（3）町村道との連携」の中で「今後も台風等による災害や町村道の無電柱化事業の新たな計画により、都道の整備区間の目標や整備箇所、整備延長の変更など、必要に応じて計画の見直しを行っていく」とだけ記載されている。また「6・『電柱のない島』を目指して」の冒頭に、「都道や港・

空港のみならず、町村道等に設置されている電線類についても、地中化を促進し、『電柱のない島』を目指していく」との記載があり、市町村の事業に対する補助制度の

記載がある。

八丈町では、令和4年度に「八丈町無電柱化推進計画」を策定し、現在、護神山向里線の無電柱化を実施している。一次計画、二次計画まで計画され、現在進行中の無電柱化事業の経験や実績を踏まえ、来年度に、計画の見直しを行う予定。

■無電柱化整備が終了していると思われる都道で、交差する



町道から渡っている電線が見受けられ、先の方に海が望められる綺麗な景色に電線が入り、残念な景色となっている、町の事業計画で、令和7年度から10年度まで示されているがどうか。

■7年度は、接続部を埋設するための試掘を、8年度から三カ年で護神山向里線の電線共同溝工事を進める計画。他に河口から八重根港までの路線や都道から病院までの道路などの計画だが、来年度に新たな無電柱化推進計画を策定する。

■この事業計画以外の路線についても東京都の支援を受け、道路管理者である町と電線管理者である東電やNTTと相互に連携・協力し検討を。

■初めての無電柱化事業で、八丈支庁土木課に指導・協力を頂き事業を進め、電線の各事業者とも連絡・協議し進めている。また、町道から都道を渡っている電線についても東京都へ要望し進めていければと考えている。

八丈町議会 島内視察

令和7年2月18日

令和6年度の八丈町議会島内視察は、島内の農業・漁業振興対策の充実と強化、八丈高校園芸科の魅力化を目的とし、3施設の視察を行なった。

参加議員

真田幸久 浅沼隆章

奥山幸子 浅沼清孝

沖山 昇 岩崎由美

浅沼碧海 山下 巧

浅沼憲春 山本忠志

報告者 浅沼碧海

① 八丈町農業担い手育成研修センター

八丈町の農業生産額は約20億円で、フェニックスロベレニーを中心とする切葉栽培が盛んであり、市場でも大きなシェアを誇っている。しかし農業従事者の高齢化が進み、八丈町としては新規就農者を育成するために、平成20年度に八丈町農業担い手研修センターを開設した。

研修1、2年目は指導員によるルスカス・レザーファン、ロベ、レモンの4つの施設にて栽培実習や座学などによる基礎研修を行い、3年目以降は就農準備期間として、指導員なしで自己研修を行

う。現在は8期まで重ね、1～5期の卒業生の状況については、13名のうち12名が卒業し、11名が新規就農者として島内で就農している（1名は自主退所。1名は島内で飲食店経営）。6期～8期生の6名は卒業に向け、研修を続けており、9期は3名の受け入れを行う予定である。

西見研修センターでは東京都の補助事業の活用として、農業用施設のDX化を実施し試用運転を行なっている、「DXハウス」の見学を行い機能などの説明を受けた。ハウス内の観測データの記録

や定点カメラでの監視、自動灌水や換気などが、アプリを導入すれば可能になるとのこと。日本全国から視察に来られるほど関心の高い事業である。担い手センターではフル装備のDXハウスを建設し、今後島内事業者には作物に合わせて用途を変えながら実用化に向けて取り組んでいく予定である。議員からは、導入時の費用対効果などの質疑が行われた。



DXハウス外側（ソーラーパネルを利用）

質疑の中で島内での雇用の質問があり、島内での雇用の前提はなく、短期雇用がほとんどで個人経営・家族ベースが現状である。視察時には旬である八丈ブルーツレモンの研修が行われていた。課題などを伺うと、取り決めのよる流通の仕組みに対し、より希望者に届けられるような柔軟な対応を求める声が上がった。



DXハウス内での意見交換

② 東京都立八丈高等学校 園芸科施設

八丈高校では、屋内にて東校長との質疑などの意見交換、園芸科担当の佐藤教諭より屋外の施設案内が行われた。

園芸科施設に対しての適正人数、許容数の質問があり、実習等は12〜13人が限度だが、来年度の園芸科の入学人数は1名になるのではないかと話があり、年々希望者が減少している実態を伺った。



東八丈高校校長と意見交換



園芸科豚舎（今は倉庫として利用）

八丈島にある園芸科の利点を活かした島の特産品の生産や島内での生産者との交流に対しての質問では、サトイモ、オクラ、トウガラシ、サツマイモ、観葉植物などを生産しており、産業祭や夏祭りに参加し、交流を行なっているとのことであった。

進学先で園芸科を活かしているかとの質問においては、進路は

様々で生徒が少ないので一概には言えないが、近年では農業（食品）関係の進路に進む生徒が多いとのこと。

町や都への要望を伺うと、施設の老朽化の課題が挙げられた。

最後に今後の展望としては、施設をフル活用し、八丈高校ならではの特産品を作り、八丈にある園芸科としての強みを活かし、ア

ピールをしていきたいと、園芸科の活性化に対する対策を語っていただいた。
施設案内では、豚舎や鶏舎、ビニールハウス内を見学した。過去には畜産分野の授業があり、豚や鶏が飼育されていたが、現在は行なっていないため、鶏舎・豚舎は作業場や資材置き場などにして利用していると説明を受けた。

③ 東京都島しょ農林水産総合センター 八丈島事業所

農林水産総合センターでは八丈フルーツレモン、ルスカスの育成現場を見学した。菊池課長代理より、八丈フルーツレモンの特徴や島外各地との比較、商標登録の申請中であることや、ブランドを守る取組などのお話を伺った。

適度な剪定を行い、新しい枝を出すことが大事であること。通常のレモンでは中の白い部分に苦味成分が含まれているが、八丈フルーツレモンには甘さがおびること。マイヤーレモンの中でも菊池



八丈フルーツレモンの露路栽培実験

レモンは遺伝情報が異なり、食した種を植えても同じレモンにはな

らず、苗木が島外に出回らないように配慮をしているなど、八丈フルーツレモンならではの特徴のお話を聞くことができた。

ルスカスのビニールハウスでは、現在コウジカビ病が流行しているとのこと、紫外線が当たると増えることから、紫外線フィルムをかけることや、通気性を良くするためのダクトの設置の必要性の対策などの説明を受けた。普段



ルスカスを管理しているビニールハウス内

目にするルスカスの繊細な部分を聞くことができた。

DXの活用では、個別のDXの利用を図り、部分的に取り入れられるようなモデルを作っていくとのこと。

新水産庁舎

令和10年度に運用予定

質疑では堀井事業所長より、事前質問への回答や、農林水産総合センターでの取り組みなどの意見交換を行なった。

各関係者との連携については、担い手研修センターの運営支援、JAにおいては部会の運営支援や生産者への技術指導。漁業に関しては研究会の運営支援や漁業者への技術支援などを行なっているとのこと。

施設としての課題の質問では、農林合同庁舎では温室の老朽化にともない解体の予定。スマート農業に対応した施設への更新予定。水産庁舎については令和10年に新庁舎が本格運用予定。

研究事業に関して、アシタバの栽培については、今現在夏場の高

温により株腐れ症状が発生されている。安定的な生産のため試験研究を行い、土壌改良や巡回調査のもと、データを蓄積している最中である。

レモン以外の作物の可能性の質問に及ぶと、基本的にマンゴー・パッションの調査を進めているが、生産者の方で多くの果実の栽培は可能だが、産業として成り立ち販売まで含めた戦略が必要なため、八丈というブランドを活かせるような作物を選定し、研究を進めているとのことであった。

アオウミガメが

テングサ食害

水産業に関しては、テングサの再生・保全事業について、八丈の漁業者より「アオウミガメがテングサを食べている」という報告を受け、調査を行ったところ「テングサを食べていた」ことが確認された。カメに関しては国際的な保護の観点もあるので、テングサを食べないような技術に関しては全国含めても取り組めていないのが実情である。

黒潮大蛇行

8年8カ月継続中

また、現在黒潮の大蛇行が8年8カ月続き、実際は栄養の少ない状態が継続され、海藻類に関しては不利な状態が続いている。「黒潮の恵み」という言葉があるが、現状ではその恵みを受けていないとお話しくださった。

くさや以外の加工品については、八丈島漁協女性部が中心となり、飛魚・ムロ・メダイに加え、最近はキハダマグロも使った加工品を開発しているとのこと。

加工だけでなく、都内の学校給食の食材提供や出前授業を行い、伊豆諸島の中でも精力的に発信活動を行なっている島であることを伝えていただいた。

訂正 前号（213号）の行政視察参加報告（12頁）の記事中、参加議員の名前に「浅沼清隆」とあるのは「浅沼清孝」の誤りにつき訂正致します。（編集部）

昨年の3月議会定例会の一般質問にて、町長に質問した「任期内に成し遂げたいことは？」への回答は、「将来を見すえた、公共施設の適正な配置計画に取り組みたい」とのことだった。その言葉通り、八丈町立小中学校適正規模・適正配置審議会が設置され、今年3月に第一回が開催された。島の子供たち、地域の未来の審議の場である。私は末吉中学校の廃校が決まり、三原中学校との統合の世代の経験者でもある。この世代で議員に選んでいただいた責任も踏まえ、八丈島の進むべき方向性と向き合っていきたい。

(浅沼 碧海)

議会だより 214号

発行人 八丈町議会議長 山本忠志

編集 議会だより編集委員会

委員長 奥山幸子 副委員長 山下則子

委員 真田幸久 浅沼碧海

〒100-1498

東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437

メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

菊池レモンの女神さま現る!?

東京都島しょ農林水産総合センター 八丈事業所
主任研究員 課長代理 菊池 知古^{ちこ}さん (61歳)

チコちゃん(失礼ながらこう呼ばせていただきます)は23年前、結婚を機に八丈島へ。果樹の研究員の前職場から八丈島への異動だけで済んだことが、菊池レモンの女神さまになる始まりだったのかもとは感じました。

チコちゃんは、八丈島から旅立つ若者が将来戻ってきた時に、「切り葉日本一」と言われる口べの他に雇用につながるものがないかと模索。当時菊池レモンと名付けられ小笠原で栽培されていたレモンを農林合同庁舎の試験圃場で増殖し、他の地域のように青いレモンではなくもっと生産者が儲かるにはと考え色々実験。樹上完熟にすると他のレモンにはない魅力を引き出せることを発見したそうです。

種から育てると思っていた私は、「それでは菊池レモンとは呼べない(遺伝子的に)違うものになるんですよ」と指摘されたり、同じ樹木で咲いた花でも遅咲きの花は収穫期の1月までに樹上完熟に至らないので、たとえば4月以外に咲いた花芽は摘み取ってしまうとか



等々、ハウスの中でのチコちゃんの熱い語り口に並々ならぬレモン愛をヒシヒシと感じ、レモン部会の方々に持てる知識を惜しみなく降り注ぐ情熱も感じました。

菊池レモンに対する間違った記事が掲載されたりするので、チコちゃんは論文を書き、「農業および園芸5月号」(養賢堂刊)に掲載されるそうです。

今では八丈フルーツレモンとして認知度も増しているレモンの見方が変わった素敵な出会いでした。

(山下 則子)